【本事業の狙い】

［これまでの状況］

アメリカ発3Dプリンタブーム到来

わが国でも再ブーム ＋ 国内外でベンチャ企業が出現（メーカ 300 社超）日本ユーザの 7 割は海外メーカ

方向性の二極化
- ➢ パーソナル付加製造装置の普及(製造には不向き)
- ➢ 広範囲な製造業向けの付加製造装置の出現に期待（これまでは一部の分野に限定）

［産業界への普及のためには］
- ◆付加製造装置・造形物 ⇒ レベルアップが必要
- ◆利用材質の多品種化 ⇒ 活用範囲の拡大、新製品の可能性

［国の活動］
- ➢ 調査事業の実施
- ➢ 研究開発が始動

本事業の狙い

［付加製造産業界の活動が重要］
- ➢ 付加製造装置のファブリケータとベンダ（メーカ）の視点から方向性を「見える化」の実現
  付加製造技術に関する戦略構築
- ➢ 付加製造技術を単なるブームで終わらせることなく、日本の産業界に根付かせる

【本事業での実施概要】

（1）国内外システムの造形物の産業統計、特性基礎データ収集［現状把握］
- ●産業界を俯瞰するための産業規模の把握→産業界での付加製造装置の位置付けが重要
- ●付加製造装置の実態把握→装置・造形物個票を作成
- ●装置・造形物個票集の作成
  - → 粉末床溶融結合法が多い（研究開発は、指向エネルギー堆積法に重点）
  - → ユーザへの情報提供
- ●最新の造形物特性を調査
  - → 産業用への適用の有効性確認

（2）川下産業が期待する付加製造装置への要望［ニーズ把握］
- ●ユーザの不満を整理
  - ①造形物が低品質
  - ②原料の制約
  - ③装置がブラックボックス
  - ④長所、短所が理解できてない
- ●新たな適用分野（量産；鋳造、単品；医療）
  要望;①教育、②ISO確立、③市場創生、④ユーザ啓蒙
- ●デザイン性を重視するユーザの要望とニーズを整理中
  - → 課題や提言へ展開

（3）現状及び期待から見えてくる付加製造装置の課題［課題の見える化］
- ●付加製造装置関係メーカ自身が俯瞰的には理解できていない
  - → それぞれの付加製造工法及び素材毎に「強み」と「弱み」を整理
- ●川下産業の要望 ←すり合せ→ 上記の「強み」と「弱み」→ 分析
  - → 提言・展望の方向性を整理

（4）付加製造技術を用いたものづくりへの提言、展望［産業界への普及拡大への道筋］
- ●プロバイダーとして個々に努力する課題、業界全体として取り組む課題を示す
  - → 付加製造装置関係メーカが実施すべき戦略の骨格を作成
  - → 更に周囲環境を踏まえて、今後、付加製造産業界が実施すべき戦略についてまとめた

【次年度の取組み(継続)】
- ●付加製造技術の活用が期待される産業(製品)へのアプローチ(樹脂系、金属系)のための具体的な戦略作り

付加製造技術によるものづくりの振興に関する戦略策定